

主の祈り (93-5A)

天にまします われらの父よ
ねがわくは、み名をあげめさせたまえ
み国をきたらせたまえ
みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ
われらの日用の糧（かて）を、今日もあたえたまえ
われらに罪をおかすものを、われらがゆるすごとく
われらの罪をもゆるしたまえ
われらをこころみにあわせず、悪よりすくいだしたまえ
国と ちからと さかえとは、かぎりなく、
なんじのものなればなり

アーメン

石巻栄光教会宣教基本方針

石巻栄光教会は、主なる神と出会うイエス・キリストの体です。神様が愛している一人一人のかけがえのなさを思い出し、この世界を神様が大切にしていることを思い出す場所です。石巻栄光教会は、希望を生み出します。

私たちは、この社会の現実の中で生きています。教会の中だけでの満足にとどまらず、社会に生きる人々の痛みや苦しみ、あるいは楽しみを共にしていくこと、そして、悩みや不安を分け合って喜びに変えていく教会になることを願います。

また、一人一人の生き方を尊重するとともに、神様から一人一人に与えられている賜物を活かして、神さまと人を愛し、感謝しながら地域に仕えていく教会を目指します。



日本キリスト教団 石巻栄光教会

〒986-0854 石巻市大街道北2丁目12-3

電話/FAX: 0225-22-4090

ホームページ: <http://tohoku.uccj.jp/i-eikou>

メール: i-eikou@tohoku.uccj.jp

振替口座: 02280-8-2810

教会創立: 1887年9月25日

集会案内

聖日礼拝	毎週日曜日	午前10:30
早朝礼拝	毎週日曜日	午前7:30
交わりの会	毎週日曜日	礼拝後
み言葉と祈りの会	毎週水曜日	午後7:30

2024年度標語 『これは、人の意志や努力ではなく、
神の憐れみによるものです』

- ◎ 聖日礼拝を共に守りましょう。
- ◎ 日ごと聖書に聞き、祈りましょう。
- ◎ 家族・地域に福音を届けましょう。
- ◎ 平和を創り出すために働きましょう。

No.2497

主日礼拝式順序

2025年11月2日


 受付
司会
献金
奏楽

 礼拝当番は
礼拝堂に集まった人の中で
可能な方に担当いただきます。

前奏			
招きの言葉	[31] イザヤ書第55章6～7節	司会者	
讃美歌	24	一同	
子どもたちへの話			
祈り		司会者	
聖書	ミカ書6章8節		
	(旧約聖書1456ページ)		
讃美歌	418	一同	
お話し	「聖書の神の求めるところ」		
	川上直哉 牧師		
讃美歌	418	一同	
献金		一同	
報告		司会者	
讃美歌	89	一同	
祝福の祈り			
後奏			

＊当教会では 着席のまま礼拝を守っています。
 ＊旧約聖書は前半(P.1502まで)、新約聖書はその後ろです。
 ＊献金の額はいくらでも結構です。持ち合わせがないときは次の機会に。

∞〇∞〇∞〇∞〇∞ お知らせ ∞〇∞〇∞〇∞〇∞

本日は永眠者記念礼拝です。
 礼拝後、墓前礼拝をし、愛餐会をいたします。

∞∞∞∞∞∞ 今週の集会 ∞∞∞∞∞∞

- ☆「御言葉と祈りの時」 11月5日(水)19:30～ オンライン併用
 ☆「解放の神学」読書会 11月7日(金)10:00～ オンライン併用

∞∞∞∞ 次週の予告(11/9) ∞∞∞∞

☆ 永眠者記念主日礼拝(お話:川上直哉 牧師)

[聖書]	コリントの信徒への手紙第二5章10節			
[お話]	「すべてが明らかに」			
[讃美歌]	25	196	90	[招きの言葉] 27
受付	礼拝当番は礼拝堂に集まった人の中で可能な方に担当いただきます。			
奏楽				

次週礼拝後、聖餐式と役員会をいたします。

∞〇∞〇∞〇∞〇∞ お知らせ ∞〇∞〇∞〇∞〇∞

♣今後の予定は以下の通りです

- ・11月9日(日)礼拝堂で聖餐式
- ・11月30日(日)アドベント開始
- ・12月7日(日)柴宿教会で礼拝奉仕(14時半から)
- ・12月21日(日)クリスマス礼拝
- ・12月24日(日)クリスマスイブ礼拝(19時半から)

《 先週の集会統計 》			
聖日礼拝	11人	み言葉と祈りの会	-
早朝礼拝	-	聖餐式	-
月定献金		特別献金	
席上献金	¥21,000		

週報別冊

2025 年 11 月 2 日号

1. 教会宛に、以下の通信が届いています。

【石巻栄光教会関係】

- 「被害日本ユースキャンプ2025思い出号」(東日本同信伝道会) : 8月に新潟で行われた催事の報告書を頂きました。

【日本基督教団・東北教区関係】

- 「教区のつどい 第二報」(日本基督教団東北教区) : 11月24日(月・祝)に山形学院で行われる集会の案内と申込書を頂きました。
- 「クリスマスのご案内」(宮城学院) : 宮城北地区の関係学校からクリスマス関係のお知らせを頂きました。
- 「学報」「後援会会報」(東京聖書学校) : 「海外宣教に期待する」(教授 島隆三さん)「東京聖書学校に入学して良かったこと」(仙台青葉荘教会牧師 野々川康弘さん)等が掲載されています。
- 「神学講演会」(東京神学大学講演会宮城地区) : 11月16日(日)午後日本基督教団仙台広瀬河畔教会で行われる講演会のお知らせを頂きました。

【その他教会・団体関係】

- 「ホ・ロゴス」(静岡盲人伝道センター) : 「31万人ともいわれる視覚障がい者の方々、また100万人以上の読書困難なの方々へ、音声版・点字版・テキスト版でキリストの福音をお分かちすること」を目指す団体からの通信です。
- 「FEBC1566」(キリスト教放送局 FEBC) : 「権力と信仰 : ボンヘッファーの信仰に学ぶ」(村上伸さん)等が掲載されています。

2. 牧師動静

10月27日(月)

日中、福島県奥会津で行われる宮城県教誨師会主催の「只見川慰霊祭」に参加し、夜、「聖なる父」読書会を主宰しました。

10月28日(火)～30日(木)

楊州 YMCA のみなさまをお迎えし、布施辰治の巡検をして、「平和」フォーラムを主催していました。

10月31日(金)

午前中、楊州 YMCA のみなさまを空港へお送りしてから、東北学院大学で調査をし、夕方、ワイズメンズクラブの例会に出席しました。

11月1日(土)

終日、仙台白百合女子大学「キリシタン巡礼遠足」でガイドをしました。

- 先週の日曜日は「宮城北地区デー」でした。礼拝で捧げられた席上献金は「地区宣教共働会計」に(教区ではありませんでした。お詫びして訂正します)送金されました。皆様の祈りとご協力を心から感謝いたします。各教会が「外壁補修」や「屋根修繕」等宣教活動のために必要な資金を賄うために、地区が責任をもって教区と共に予算を執行する、ということが、「宣教共働」の理念です。具体的には、地区は合意形成・支援申請の主体となり、また応分の負担もするを通して、地区の諸教会が本当の意味で連帯し助け合えるようになることが目指されています。どうぞ、引き続き、教団・教区・地区のために、そして地区役員各位のために、ご加禱を賜りますように、お願いします。

11月3日(月)

終日、仙台東教会の佐々木牧師を石巻にお迎えし、接遇しています。

11月4日(火)

午前中、登米市で宣教師と会議を行い、午後、仙台で韓国の大学生と会議をし、夜、オンラインで東北ヘルプ理事会を主宰します。

11月5日(水)

日中、東北学院大学で調査をし、夜、祈祷会を主宰します。

11月6日(木)

午前中、一件の訪問をして読書会と聖餐式をし、午後、食品放射能計測所運営会議をオンラインで主宰し、夜、「支倉常長教皇謁見410年記念シンポジウム」の実行委員会にオンラインで出席します。

But we leave this story for another paper. Wonderful things have happened. Our missionaries have impacted out to the distant tribes and people; and then we hear of Mr. Cobb at Wipacra, walking up and down in his garden, crying, "Glory, glory to God!" in holy ecstasy of joy, because of the triumph of the Cross of Christ in this corner of the vineyard during recent months. Mr. Horner at Malsheia asking for a hall to himself to bring people to the house of God on the Lord's Day; and at Wera Town, of progress slow but real, the settlers on the Mission happy and faithful, many true Christians, of "strong convictions of the resurrection, the church always filled in consequence of all services, and of all the classes for adults larger numbers of attentive hearers." It may be a day of small things as measured by man's standards, but it is the reign of God. Who gave His Son to be "a ransom of all, to be sealed in the one blood." It is the beginning of mighty things.



CHRISTIAN WORSHIP IN JAPAN.

THINK very few of our friends in England can form an idea of the earnest appreciation for a preaching of Japanese Christians engaged in prayer, in a building simply furnished with the tables, or ordinary seats. The aspect presented in the picture shows a more soberness than a gathering of Christians away from our English churches. Very quiet and very earnest does such an assembly appear, but one cannot help feeling that such a position must be very trying to the heart, and with its solemn and kneeling enjoyment. The kneeling was upon the floor, and the responses are given so clearly and loudly as to be heard of those around of house. There is no such but the deep silence, arising of kneeling, which gave upon one's feelings to see many Christians here in

Christian lands. The people at the last, given a great idea of ecstasy as follows the location who came to its own satisfaction and so as to realize that.

The photograph, however, taken of our Christian Church as it usually appears in a Sunday morning. The church was very much of light on the left as the reader looks, the window is projecting and therefore there will be only Christians, who some twenty or more Christians will together partake of the blessed sacrament of our Father's dying love.

The men, you are, on the right hand, the women on the left. The front benches keep the Lord's Prayer, Creed, and the Communion service, and the people before the altar. Over the table is the inscription—Korinthus, and with us. These are the tables held by the confirmation, the for members of the Society Church, and here, too, our youngest Sunday school children are seated. The American board at the front, which is seated; in there may be described as "solid."

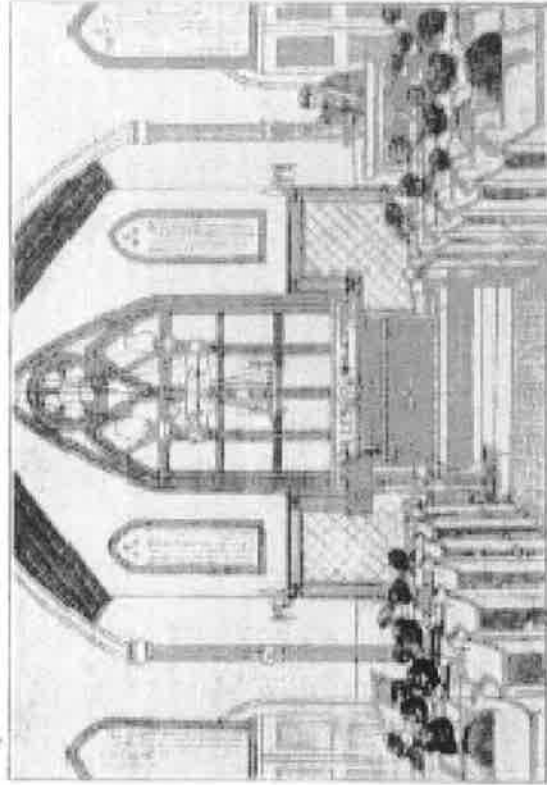
lay, outside, for the fragments of all of which the women stand up with much and arise except with clay and hand with the

The church walls are adorned with light blue and the top of the church light pink. The women are of plain, neat appearance, and the men, perhaps, of a sort of old-fashioned. The public cover of women clothed with white was the kind of a formal white long robe, light blue, and the men may be said also of the same cloth, and the Communion service. While during the service of the two temples of transference, we feel it needed also that all that serves the service of our God and service should be done "cleanly and in spirit," and such an interior is very helpful in conveying the same sense to words, as might be seen by the women, and all members of public worship arranged for them by a beautiful pattern.

DAIICHI, KANAGAWA.

Oct., 1886.

The accompanying two pictures were made for me by a Native artist in Japanese Church, two churches in Japan.



CHURCH MISSIONARY GLEANER, BY THE GLEANER, CHURCH MISSIONARY GLEANER, JAPAN.

11月7日(金)

午前中、休暇を頂きます。お昼にオンラインで全キリスト教教誨師連絡協議会の会議に出席し、午後、休暇をいただきます。

11月8日(土)

日中、休暇をいただきます。夜、ワイズメンズクラブ国際協会第29回東日本区大会(石巻大会)の実行委員会にオンラインで出席します。

※牧師と面会をご希望される方は、どうぞ、ご遠慮なく教会のメール宛、ご連絡ください。上記日程を調整して、お会いしたく存じます。

1886年の日本の教会の礼拝を知らせる新聞記事。

上のイラストについて、

「長崎以外ではどこでも

この様に礼拝している。

頭がつかないだろう。」

と記されています。